

館林市立第三中学校
学校だより

全校一心



～一人一人の持ち味が光る活力ある第三中学校～

校内体育祭開催

5月24日(火)校内体育祭を開催しました。天候に恵まれ、競技に取り組む生徒の笑顔はとても輝いていました。



応援に来ていただいた保護者の皆さんには、暑い中でしたが、たくさん来校していただき、ありがとうございました。

少年の主張最優秀賞

3年 □□□□「受け入れるということ」

1年 □□□□「懸命に生きる意味」

二人は、第三中学校代表として7月2日(土)に少年の主張館林大会に出場します。

校内少年の主張大会

6月2日(木)校内少年の主張大会を実施しました。代表者6名のみな立派な意見発表でした。紹介も兼ねて一言感想を書かせてもらいました。

①2年 □□□□「将来の選択」

一冊の科学の本から、「研究者になりたい」という夢と頑張る意味を見つけた上村君。その実現には壁があるが、「自分がどうありたいか、どう輝きたいか」と自問自答して前に進む考えは、生きていく意味を考えさせるものでした。

②3年 □□□□「壁に挑む」

富崎さんの主張も自分の夢と実現の壁についての主張でした。実現することは難しくても、「夢を追求することは人生で決して無駄ではない」という言葉は、夢に挑むみんなにも向けられた言葉ではないでしょうか。

③3年 □□□□「受け入れるということ」

世の中はたくさんの情報にあふれ、多様性を認めるといっても、実際に偏見や差別はまだまだ存在すると思います。そういった現状は「誰かが、生きづらい社会」。恩田さんの言う「誰もが、生きやすい社会」のために、偏見をもたず、その人の特性やよさを理解し、受け入れることの大切さについて発表してくれました。

④1年 □□□□「短所と長所」

数学の授業で見つけた魔法の言葉「裏の裏は表」。その言葉から「短所は長所になる」という発想の転換に気づき、「短所・長所いっぱい見つけてほしい」という樋口さんの主張は、自分を知り、その良さを生かしてほしいというメッセージだと思いました。

⑤2年 □□□□「誰かの笑顔のために」

不慮の事故などで頭髪を失った人たちのために、寄付された髪の毛でウィッグを作るヘアドネーションという活動を知り、自分も誰かのために「きれいな髪を届けたい」と行動に移す松本さん。その優しい思いと行動は周りの人たちの笑顔にもつながったと思います。

⑥1年 □□□□「懸命に生きる意味」

アフガニスタンの子どもたちに「ランドセルを贈る活動」を知り、ランドセルを手にした子どもたちの笑顔やありがとうの言葉に心震わせる岩崎さんの気持ちが伝わってきました。世界の貧困について調べ、募金活動をし、できることをしていきたいと頑張る岩崎さんの姿勢から、誰かを応援することで自分も元気に、そして成長させてくれるんじゃないかと思いました。

